

中国の対日諸工作

中国は、急伸する経済力を背景に世界各国において存在感を増し、南シナ海では海洋権益をめぐる周辺諸国との摩擦が生じています。

我が国との関係では、我が国固有の領土である尖閣諸島周辺に中国の漁業監視船及び海洋調査船が繰り返し接近しており、平成23年8月24日には、**漁業監視船2隻が尖閣諸島周辺の我が国の領海内に一時侵入する事案が発生しました。**

また、軍事面では、中国政府が2010年の国防予算を約786億ドルと公表していたのに対して、8月に米国国防総省が発表した「中華人民共和国の軍事及び安全保障の進展に関する年次報告」が「国防総省は中国の2010年の軍事関係支出の合計は1,600億ドルを超えていたと見積もっている」と指摘するなど、急速な近代化と不透明な予算に対して懸念が広がっています。

7月1日、米連邦捜査局（FBI）は、世界最大のデリバティブ取引所であるシカゴ・マーカンタイル取引所（CME）を擁するCMEグループの従業員を、同社の企業秘密を盗んだ疑いで逮捕しました。FBIシカゴ当局によると、同人は、2000年にCMEに入社したソフトウェア・エンジニアであり、中国の張家港市物流貿易局にCMEのコンピュータ・コードを提供する意図を持って、同社のシステムから数千のファイルをダウンロードし、社外に持ち出していました。

このように、中国は、**諸外国において情報活動を行っていることが明らか**になっており、我が国においても、先端技術保有企業、防衛関連企業、大学・研究機関等に研究者、技術者、留学生等を派遣して、先端技術に対する情報活動を行っているほか、環境、食料、医療等にその**情報収集活動の対象を拡大**しているものとみられます。

警察では、我が国の国益が損なわれることのないよう、こうした諸工作に関する情報収集・分析に努めるとともに、違法行為に対して厳正な取締りを行うこととしています。



尖閣諸島(時事)



中国の海洋調査船(時事)